

# 千年の森便り No.230

2022.12.10

ちば千年の森をつくる会

<http://toyofusajima.html.xdomain.jp/>

代表 福島成樹

編集 真鍋昌義

[sennennomori@hotmail.co.jp](mailto:sennennomori@hotmail.co.jp)

## 活動の記録

12月4日(日) 天候 晴

今年最後の活動日は久しぶりの青空になりました。少し早めといわれていた紅葉ですが、明るくなった森で青空に映えるモミジ類の紅葉、コナラの黄葉を楽しむことができました。



今回は、ニホンジカ生息状況調査とナラ枯れによる枯死木(コナラ)の伐採、物置の片づけなどを行い、心地よい汗をかいてケガなく今年の活動を終えることができました。ご参加いただいたみなさまお疲れさまでした。

また、坂本さんには、前回に続き坂本農園産のダイコン、白菜、青梗菜、里芋などの新鮮野菜をたくさんご提供いただきました。ありがとうございました。

参加者は、秋元、伊藤、鶴沢、大原、苅米、久我夫妻、坂本、清水、竹下、中田夫妻、成沢、福島の会員 14名でした。

次回の活動日は年明けの1月15日(日)です。みなさま良いお年をお迎えください。(福島)

## 〇ニホンジカ生息状況調査

3か月に1回、年4回の調査を計画しているこの調査ですが、前回の9月は台風接近により活動が中止となったため、今回は今年度2回目の調査となりました。今回は、10人で7コースを分担して一斉に島内を踏査しシカのカウントを行いました。調査時間は、9:58から10:56の約1時間でした。

結果は、痕跡としてシカのフンは確認されましたが、目撃、声、足音の確認はありませんでした。調査に参加されたみなさまお疲れさまでした。(福島)



久しぶりの快晴



快晴の上空にトビが舞い



禁断の岬でひっそりと春を待つヒカゲツツジ

## ○広場横の枯死木の伐採

以前から広場に近接しているコナラの木が枯れているのが気になっていましたが、ちょうどチャンスに恵まれたので処理をすることになりました。

今回の作業は、枯れた広葉樹を、しかも重心の逆方向に、かつ周りの木を傷つけないように人力のみで倒すという、なんとも厄介な内容でしたが、せっかく完成したテーブルを活用するうえでどうしても必要な作業でした。

作業にあたっては、まずスローラインを木の中間よりやや上の太い又の部分にセットしました。本来であればもっと高い箇所を使いたかったのですが、相手は枯れ木（生木よりも折れやすい）ということもあり念には念を入れました。

続いて、先ほどのスローラインでロープを手繰り寄せで固定し、チルホールに接続しました。伐倒にあたっては、しっかりと弦(つる)を効かせ、それでも「万が一」があってはならないので、絶対に逆方向(広場側)に倒れないよう、控えのロープを設置しました。その後、クサビも併用しながらチルホールで少しずつ木を起こし、伐倒方向に重心を移し、最後は掛かり木処理の要領で安全に伐倒することができました。

今回は伐倒にあたり、電池式のチェーンソーを使用しましたが、エンジン式のものよりも音が小さく、作業中も周囲と意思の疎通が容易であった点で大変良かったと思います。

一方、木が混み合っている箇所での伐倒はどうしても難しいものがあります。次回、類似ケースに対応する機会がもしあったら、樹上で少しずつ切っていく方法（特殊伐採）も検討したいと思います。

今年の春に入会してから、いろいろな経験をさせていただきました。これからも安全第一で研鑽を重ねていきたいと思います。来年もよろしく願いいたします。（竹下）

## ○枯死木の伐採

ナラ枯れ被害木であり昨年に枯れたコナラを伐採しました。伐採作業は、竹下さんの指導のもと、電池式チェーンソーを使用し行いました。

電池式チェーンソーの使用も初めて、「突っ込み切り」も初めてで緊張しましたが、竹下さんのおかげで無事狙った方向に倒すことができました。「どのように伐採すれば、より安全なのか」を考えながらの作業で、身も心も大変疲れました。

枯れて時間が経つと腐朽が進行し伐採作業の難易度が上がるため、伐採が必要な箇所で作業可能な場合はなるべく早めに対処していきたいと思います。広葉樹の重心の偏りやナラ枯れによる腐朽の進行具合等に注意を払いながら、今後も安全第一で作業していきます。（成沢）

## ○倒木の片付け

広場では伐採の精鋭チームが活動しているので、邪魔にならないように離れて、ほてい岬方面の林床に散乱している枯れ木、枯れ枝を片付けました。放置しておいても、いずれ木材腐朽菌や土壌微生物の働きで分解され消えるものですが、今片づければ林内の美観が多少は向上すると思うからです。

倒れたままの木は長く、重くて動かせないなので、適当な長さに切り詰めて積み上げました。

国木田独歩の代表作「武蔵野」に描写されたような雑木林に近づければ良いと思います。（坂本）



枝に懸けたロープ



チルホールでの牽引



倒木片付け

## ○仮設物置の片づけ

ここ数年の懸案だった仮設物置の整理片付けにやっと取り組みました。

久我則子さんをリーダーに、風もなく冬の陽ざしが心地良い中、心地よい汗をかきました。

すべてのものを取り出しブルーシートに並べて断捨離をし、まだ使える、なにかに使えるは禁句とし、ここ数年使っていないものはすべて処分しました。結果的に思ったよりスッキリし、どこに何があるか見えるようになりました。

幸いレンタル山林業を営む大原会員がその大半を再利用してくれることとなり、廃棄物のごくわずかでした。用具倉庫の整理状況を見ればその団体のレベルがわかるとの名言（迷言）もあります。また混沌物置に戻らないよう御協力をお願いします。久我さんが目を光らせていますよ。（伊藤）

## ○コナラ伐採地

今回は、保護ネット周囲の整備を行いました。ネットに枝掛かりする植物の除去と剪定、ネットに近いアセビ、シロダモ、クロモジは除去しました。これによりネットから50cmほどの空間は見通しや風通しが良くなりました。以前、動物の侵入を許してしまったナイロンネットの補強のため、金網を全周に追加設置してあります。この金網の点検で一部の重ね合わせ部に解れが見つかりましたが問題なく機能していました。解れは修繕しました。苅米さんと新井通子さんのきめ細かい作業の賜物です。



中高木区画

保護柵内は先月、野菊と紅葉で華やかでした。今はかろうじて、リュウノウギクが数株に花をつけ、色が失せてしまったのはリンドウ、ナガバノコウヤボウキ、色鮮やかな赤い実を付けていたのはヤブコウジとサルトリイバラでした。

コナラ伐採地の中高木区画と低木草地区画は植物の成長に伴い大きく変わってきています。2013年11月の伐採から9年が過ぎ思い描いた植生分布の形に近づいています。草本類や低木を持続的に管理していく為に、低木草地区画は定期的に伐開していくことが求められます。



低木草地区画

年明けの作業として多年草や低木の根を荒らさないように、肩掛け式草刈機や鎌、刈込鋏で低木等を地上高5cm～10cm程度で刈り取りたいと思います。ただし、ナイロンネットを傷つけないよう50cm～100cmほど離隔をとっての作業としたいです。（秋元）



ナガバノコウヤボウキ

リュウノウギク

ヤブコウジ

リンドウ

## ○ネジキの紅葉

ネジキの成木は樹皮のひび割れが振れ模様で、これが名前の由来です。初夏にはスズランに似た可愛い花を咲かせます。早春に咲く馬酔木も同じ仲間ですから花も樹皮も似ていますが、片や常緑、ネジキは落葉の違いです。

ネジキの紅葉はピンクから淡い赤までのグラデーションが特徴でモミジの様なはっきりした赤にはなりません。ネジキの夢見るような色合いの紅葉は上品な感じがします。

豊英島を始め県南の房総丘陵では珍しい木ではありませんが、北総では見かけませんので、毎年この時期の出会いを楽しみにしています。(坂本)



ネジキの紅葉



オオモミジ

オオモミジ

ウリカエデ



アブラギリ

落葉

湖面の落葉

## ○死者の指 (Dead man's fingers) と呼ばれるきのこ

シカ調査の時に、1コースを担当する秋元さんの案内で禁断の岬の北岸を初めてトラバースしました。今までは崩壊か所を避けて尾根に上がっていた場所を、崩壊か所の中段を横断して禁断の岬の先端方向に進みました。足を滑らせたならそのまま湖まで落ちてしまうため非常にスリリングなコースでした。

コースの途中で2種類のきのこを見つけました。ひとつは死者の指 (Dead man's fingers) と呼ばれるマメザヤタケというきのこです。カエンタケを黒くした感じで、枯れ木の根元からまとまって発生していました。もうひとつはクロラッパタケに似たこちら黒いきのこでアキロウスタケです。クロラッパタケと違って傘の裏にヒダがあります。アンズタケの仲間、アンズタケを黒くしたようなきのこです。マメザヤタケは以前にも記録がありますが、アキロウスタケについては今回が島で初めての記録になると思われます。(福島)



マメザヤタケ

アキロウスタケ

アキロウスタケ (裏)

シイタケもありました

## ○センサーカメラの動物たち

CAM2にイノシシと思われる姿が記録されました。後姿のため断定はできませんがほぼイノシシだと思っています。過去にイノシシと思われる掘り起こしがホコラ山の裾にあったと聞いております。やっとカメラの前に現れましたがアングルに不満が残ります。



イノシシ

キジ(♂)

キョン

タヌキ

キジのオスの記録は5月以来となっています。

設置期間：10月10日から11月20日まで

※日数は確認した日数です。同じ日に複数回記録されても1日としています。

CAM1：吊橋着岸点付近

ニホンザル 2日 昼間・夜間

ニホンジカ 3日 昼間・夜間

キョン 3日 夜間

タヌキ 24日 夜間

アライグマ 6日 夜間

キジ♂ 1日 昼間

CAM2：ホテイ岬への分岐点付近

ニホンザル 1日 昼間

イノシシ 1日 夜間

ニホンジカ 3日 昼間・夜間

CAM3：ホテイ岬先端付近

ニホンジカ 14日 昼間・夜間

カケス 1日 昼間 (秋元)

## ○久しぶりに活動に参加して

9月下旬の山歩き中に突然股関節周りが痛み出し、やっとのことで下山して病院で診察してもらったら「変形性股関節症」とのことでした。以来、筋トレ+ストレッチのリハビリ生活を送っていましたが、ようやく痛みが緩和されてきたので思い切って12月の活動に参加してきました。

午前中はシカの生息状況調査の③コースに参加。尾根の南斜面一帯を進みましたが、久しぶりの不整地斜面の歩行に気を遣いました。その後、秋元さんに同行してセンサーカメラのデータ収集の実際を見学。なるほど内部はこういう仕組みになっているのか、と勉強になりました。

午後からは久我さんと伊藤さんの指示でブルーシートで覆われた仮設物置内の整理片付け作業を手伝いました。いやー、出てくる出てくる、ブルーシートやネット、ポールなど同じような資材がたくさんあるのにはちょっと驚きました。時間内に整理し終えるのか不安になりましたが、久我さん、伊藤さんの好判断で瞬く間に処分できいい仕事ことができました。

あっという間の5時間でしたが、幸い股関節周りに痛みも出ることなく無事に作業を終えることができました。皆さんお世話になりました。(清水)

## お知らせ

○次回活動日は1月15日(日)です。

年明けの最初の活動日となりますので、参加者全員で祠山にお参りしてから予定の活動に移りたいと思います。年間計画では、植生保護柵の増設、危険木伐採が予定されています。

島内はナラ枯れで枯死したコナラが多数あるため、島に入る際は危険防止のためにヘルメットの着用をお願いします。